## 天渓ツアー「スイスアルプス縦走」旅行記

2016年7月25日(月)~8月3日(水)天渓のスイスアルプス縦走ツアーに参加したので、その顛末を報告する。

今年は9月初めに大学卒業50周年記念同期会があり、その幹事を引き受けたため、事前準備やら事後の報告で時間を取られ、この旅行記に着手するのが遅れてしまった。記憶を失念した部分もあって、1部欠落しているかもしれませんがご容赦願いたい。 ボケが近づいた 浅野武彦 記

7月25日(月)参加者18名のうち15名が羽田空港に参集し、ドーハ行きのカタール航空に搭乗する。篠田夫妻、三井田夫妻、宇野夫妻、中島夫妻、赤羽、大仲、牧原、古場、山内、浅野、志波の15名である。 羽田空港 「旅立ちは 昔も今も日本橋」





## ドーハ空港(左)にて乗継ぎ

1993年10月、サッカーW杯アジア最終予選、ドーハでのイラク戦に引き分けて、日本はW杯初出場を逃した。所謂「ドーハの悲劇」である。筆者浅野は、悔しさのあまりその夜一睡もできず、翌日眠い目をこすりながら出社したことをよく覚えている。ロシアW杯のアジア最終予選が今まさに行われている。

2年後にロシアへ応援に行きたいものである。



天渓の赤沼代表は3日後に別のヨーロッパ登山ツアーから合流する。それまでは志波さんがリーダーなのだ。天渓は北アルプスの山小屋「燕山荘」グループの海外旅行会社である。



山内 中島 牧原 赤羽 篠田 宇野夫妻

関西空港からドバイ経由のエミレーツ航空でやってきた南川さんと<mark>梅本</mark>さんが少し遅れて合流した。総勢17名はジュネーブ空港からバスで、レマン湖畔、ベルン郊外、インターラーケンを経由して、今日明日の宿泊地であるグリンデルワルドに向かった。 因みに、インターラーケンとは2つの湖 Laken の間 Inter にある町という意味である。(志波さん説明) 25, 26両日はグリンデルワルドの HOTEL HIRSCHEN に宿泊する。



7月26日(火) グリンデルワルドから見上げるアイガー Eiger 3,970m



本日はアイガー北壁直下のアイガートレイルを、右から左へ歩くことになっている。9/25の日本テレビの番組「世界の果てまでイッテQ」で、イモトアヤコがアイガー登頂に成功した。彼女はこれまで、キリマンジャロ 5,895m、モンブラン 4,811m、マッターホルン 4,478m、マナスル 8,163m ほかの登頂にも成功している。



アイガー北壁



北壁直下のアイガートレイル

## 7月27日(水) グリンデルワルドからミューレンへ





写真左:グリンデルワルド駅日本人登山客で賑っている。ここからスーツケースは別行動となる。(直接サースフェーへ)各自4泊分の荷物を担いだ。



シルトホルン展望台

## 視線の先は?(男性は洋の東西を問わない)女性トイレ入口、男性トイレ入口







写真左:マッサージ牧原「山内さん、かなり凝ってるだよ」(牧原さんは蒲郡弁) 山内「痛いとね」(山内さんは九州出身) ミューレンのホテルにて

7月28日(木) ミューレン ⇒ ゼフィーネンフリューゲ ⇒ グリースアルプ







写真 左上:ミューレンのホテルを元気よく出発する。中央は経営者夫妻。今日のコースは長い登りと長い下りで、今回ツアーの最難関箇所であるが、この時は知る由もない。 筆者浅野は甘く見ていたため、大変な目に遭うのである。 乞うご期待!!





写真上: 左からアイガー、メンヒ 4,107m、ユングフラウのベルナーオーバーランド三山を左に眺めながら登る。 難関はまだまだ先である。

写真右:別のヨーロッパ登山ツアーの案内を終え、我々に追いついてきた天渓の赤沼敏治代表。 感動的な抱擁を交わしているのは、同じ長野県人である赤羽さん(女性)だ。これで18名全員が揃ったことになる。因みに、燕山荘のオーナーの赤沼健至氏は、敏治氏の兄に当る。 ここからゼフィーネンフリューゲ 2,612m に至る登りが急登となり、浅野は途中でふくらはぎや太ももがつってきて、歩行が困難となった。見るに見かねた志波さんと赤沼さんが交互にザックを背負ってくれたから何とか登ることが出来た。感謝、感謝である。 体力と平衡感覚の衰えは如何ともし難い。



それでも何とか宿泊場所のグリースアルプ小屋 1,408m へたどり着くことができた。夕食の時間、今日の登り下りで疲労困憊した 篠田夫妻、赤羽、浅野の4名は鳩首協議し、明日の山行はスキップするという結論に達した。赤沼、志波両氏からの説得工作も、4人の一糸乱れぬ団結力で撥ね返した。これで安心してぐっすり眠ることができる。

7月29日(金) ブリュームリスアルプ方面に登る14名を見送る。「ご苦労様」



残った4名は今夜もここに連泊するので、のんびりと近くの高原(写真下)を散策したり、高原ビールを飲みながら食事をした。そして、明日の夕食時にみなさんに披露する余興を入念に練習した。



後篇に続く